

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a vertical black line and a horizontal black line intersecting at a point. To the left of the intersection are two overlapping squares: a purple one on top and a green one on the bottom, both with a gradient effect.

電子出版調査報告 2010年は電子出版元年か？

2010年3月11日
ベネッセコーポレーション
デジタル事業開発部
藤島美穂

コンテンツのXML化と電子出版

電子出版の概要、現状

日本の電子書籍市場(2008年)

電子書籍の市場規模 464億円
 (前年比31%増(+109億円))
 ケータイ電子書籍市場:395億円
 (前年比79%増(+174億円))

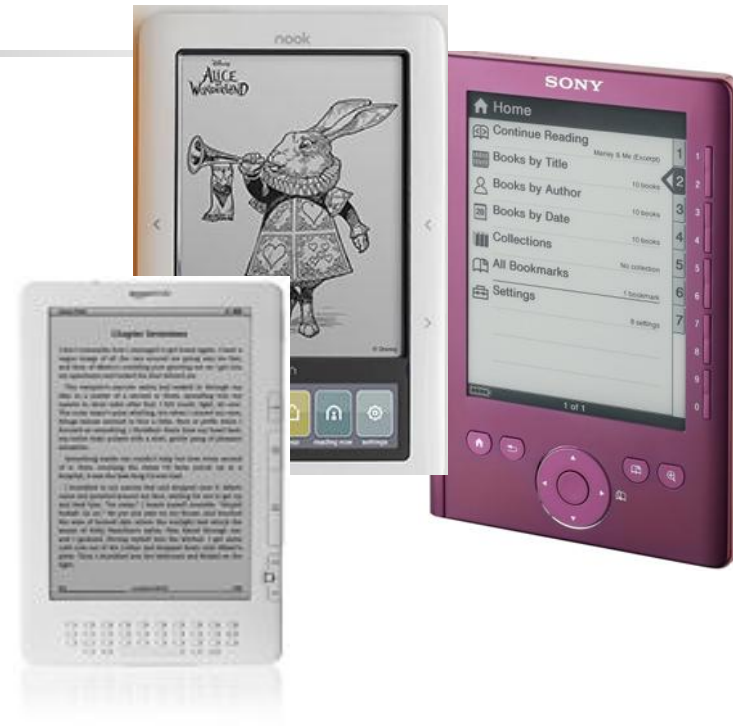


【図. 電子書籍の市場規模の推移(億円)
 (2002年度~2008年度)】
 株式会社インプレスR&D

電子書籍リーダー 電子ペーパー端末

- 2009年話題になった電子ペーパー端末
 - Amazon KindleDX
 - Sony Reader
 - Barnes&Noble Nook

- 今後の電子ペーパー
 - 薄く軽い電子ペーパー
 - Que(Plastic Logic) 厚さ6ミリ iPhoneの半分
 - フレキシブル電子ペーパー
 - LGディスプレイが「曲がる」タブロイド判サイズを開発。
 - カラー電子ペーパー
 - 電子ペーパーと液晶のハイブリッド端末
 - enTourage eDGe
 - 10.1インチ 1024 x 600 カラー液晶 Android
 - 9.7インチ 1200 x 825 pixel / 16階調 E Ink Linux



電子ペーパーの特徴

- 消費電力が少ない
- 電源を切っても表示できる
- 目が疲れにくい



電子書籍リーダー その他の端末

- iPad (Apple)
 - 2010年3月日本上陸
 - iBookstoreによるコンテンツ配信
 - 黒船となるか？
- スマートフォン
 - iPhone
 - Android
 - Symbian
 - Windows Mobile
- ゲーム機端末
 - ニンテンドーDS
 - PSP



• iPadやスマートフォンの特徴
動的コンテンツの表示
Webサイトとの連携
カラーの再現性
アプリケーション追加など拡張性の高さ

電子書籍リーダー 比較

	Amazon KindleDX	Sony Reader	enTourage eDGe	B&N Nook	Apple iPad
OS	Linux	Linux	Linux/Android	Android	iPhone OS
スクリーン	E-Ink16階調	E-Ink	E-Ink&LCD	E-Ink&LCD	LCD(IPS)
サイズ	9.7in 0.54kg	7in 0.25kg	10.1in(LCD) 9.7in(E-Ink) 1.247kg	3.5in(LCD) 6in(E-INK) 0.317kg	9.7in 0.68kg(Wi-Fiモデル)
タッチスクリーン	No	Yes	Yes	Yes	Yes
テキスト読み上げ	Yes				Yes
VoiceOver					Yes
通信	Sprint EV-DO 3G network	AT&T3G	WiFi 3G(オプション)	AT&T3G Wi-Fi	Wi-Fi,3G
サポートされる主なフォーマット※	Kindle(AZW), MP3, PDF	ePub,PDF,MP3	ePub,PDF MP3, MP4	ePub,PDF,MP3	ePub,PDF MP3, MP4
日本語フォント	×	×	×	?	○
その他	書店: Amazon	書店: Sony eBookstore	米国価格490ドル	書店: Barnes&Noble アプリの自由追加は 現状不可	書店: iBookstore 2010/3より販売

電子書籍フォーマット

■ ePub

- 米電子出版業界団体International Digital Publishing Forum (IDPF)が業界標準として推進する電子書籍フォーマット

- ePub標準: XHTML1.1+CSS2

■ DAISY

- Digital Accessible Information System (アクセシブルな情報システム)の略
- DAISYコンソーシアムによって開発と維持が行われている国際標準規格
- 国際標準規格 (HTML, SMILなど)を基本に開発、公開された
- 諸外国では、ディスレクシア、視覚障がいなど、読みに困難のある学生に、DAISY形式での教科書、教材の提供が保障されている。
 - SMIL (スマイル): W3Cによって勧告された、XMLボキャブラリのひとつ同期マルチメディア統合言語と訳され、音声、動画、テキスト、画像などのデータの同期が可能
 - ディスレクシア (読み書き障害): 知的な能力、視覚や聴覚機能に特別な問題がないにもかかわらず、生まれつき読んだり書いたりすることが苦手なLD (学習障害)の一つ

■ ePub ↔ DAISY

- 相互変換が可能

国内での電子書籍化への動き

■ 総務・文科・経産省

- 「電子書籍ビジネス環境整備研究会」設置

■ 日本電子書籍出版社協会

■ 2010年2月設立

- 講談社や小学館、集英社など大手出版社21社が参加
- 書籍のデジタル化に際しての著作権者、ハードメーカーとの交渉や規格の共通化、契約モデルの策定などを旨とする。(Wikipediaより)

■ 雑誌コンテンツデジタル推進コンソーシアム

■ 2009年8月

- 日本雑誌協会「雑誌コンテンツデジタル推進コンソーシアム」設立総会を開催。大手出版社、ITベンダー、携帯電話事業者、広告代理店など35社が参加。
- 雑誌コンテンツを電子配信する仕組みの構築を目指す
- ファイル・フォーマットの策定，データベースや検索の形態，専用ポータル・サイト構築，課金システムの検討，専用端末の研究などを進める

■ JEPA(日本電子出版協会)

■ iPhone出版研究会，ePub研究会

- ePub研究会：ePubでの縦書き、ルビ、禁則など日本語特有処理の推進を行う

■ 株式会社 ボイジャー

- アメリカのインターネット・アーカイブが推進する世界標準の電子出版配信インフラ構想”BookServer”に正式メンバーとして参加

高まる電子教科書への期待 アメリカの電子教科書の例

■ デジタルテキストブック

■ アメリカカリフォルニア州

■ 2009年5月6日

- アーノルド・シュワルツェネッガー知事
- オープンソース・デジタル・テキストブックを実現するためのイニシアチブ「Free Digital Textbook Initiative」発足を発表

■ 2009年8月

- 開発組織や出版社が**16**の教科書を提出

■ テキサス、オレゴン州など

- 今年、電子教科書への転換方針を発表

高まる電子教科書への期待 韓国の電子教科書の例

■ 韓国電子教科書

- 2011年度より、小・中・高校において、従来の紙の教科書に加え、CD-ROM製の電子教科書(e-教科書)を使用する
- 電子教科書は義務教育の小中学生には無償提供、高校生は低所得層に対する購入費支援などの案を検討

- 2010年1月12日 聯合ニュース

<http://news.nifty.com/cs/world/koreadetail/yonhap-20100112-66447/1.htm>

高まる電子教科書への期待

■ 日本での動き

■ 原口ビジョン(原口総務大臣)

- デジタル教科書を全ての小中学校全生徒に配備(2015年)

■ ソフトバンク代表取締役社長 孫正義氏

「フルタッチパネルとモーションセンサーを備え、1GHzのCPUを搭載した端末でも、今は1台2万円程度で作れる。就学者数を1800万人と仮定しても、導入費は3600億円程度。これはハツ場ダム建設予算4600億円よりも少ない。ダムがなくても国は成り立つ。1800万人の子どもたちこそ、日本が投資すべき最優先事項ではないか」

- (2/4 ネットビジネスイノベーション政策フォーラムにて)

■ その他

- Appleが発表したiPadの主要ターゲット市場として、教育分野があるといわれている
- iPad向け電子教科書コンテンツ制作プロジェクト
 - アメリカの大手教科書出版社が教科書の電子化のためにScrollMotionと提携へ

社会的要求としての電子出版

■ 「読書バリアフリー・教科書バリアフリーの動き

- 2006年12月 「国連 障害者の権利条約」採択
- 2007年 9月 日本「障害者の権利条約」に署名
- 2008年 6月 国会 2010年を「国民読書年」と定める決議を全会一致で採択
- 2008年 6月 通称「教科書バリアフリー法」成立 9月「教科書バリアフリー法」施行
- 2009年 6月 著作権法改正
- 2010年 国民読書年

現在：当事者団体から「読書バリアフリー法」の制定が提案されている。

■ 「読書バリアフリー法」(案) 賛同団体呼びかけ主意書

- 出版社による活字図書のアクセシビリティ保障(出版社による拡大図書や音声図書、点字図書の発行の促進と電子図書販売の義務化)
- 図書館内のバリアフリー媒体の充実(地域の公共図書館や学校図書館における拡大図書や音訳図書などの蔵書の充実)
- 国立国会図書館の電子図書館アーカイブのアクセシビリティ確保(国立国会図書館の電子図書館の拡大表示やスクリーンリーダーによる読み上げ対応)

(2010年国民読書年に向けて障害者・高齢者の読書バリアフリーを実現する会「読書バリアフリー法」(案) 賛同団体呼びかけ主意書より)

社会的要求としての電子出版

- **国会図書館の本、ネット有料公開探る**
 - 国会図書館は蔵書のデジタル化を進め、10年度末には同館が所蔵する国内図書
の4分の1にあたる約92万冊がデジタル化される見込みとなった。(2009年8月25日
asahi.com記事)
- **国会図書館「電子納本義務化を」 中川文科副大臣**
 - 文部科学省の中川正春副大臣が、朝日新聞の単独インタビューに応じ、製本過程な
どで作られる書籍の電子データも納入する「電子納本」を義務づける必要があるとの
考えを明らかにした。(2010年2月13日asahi.com記事)
- **オンライン図書館“Bookshare.org”**
 - ボランティアが、本を裁断～OCR～テキストDaisy形式に変換
 - サーバー上にアップし、視覚障がい、ディスレクシアなどの当事者が借り、読み上げソフ
トなどで読む
 - コンテンツは暗号化され、著作権法で認められた方だけが読めるようになっている